

saveMLAK ニュースレター 第73号

saveMLAK 報告会 2022 を開催します！

下記の日程で年次報告会を開催します。今年もオンライン開催で、参加費等はかかりません。ぜひご参加ください。

接続先のご案内は前日までに下記ページに掲載します。

<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/2022>

0702

日時：2022年7月2日（土） 14:00-16:30

会場：オンライン（Zoom）

内容：

14:00-14:45 第1部第135回 Meetup

14:45-15:00 休憩

15:00-16:30 第2部

決算報告

この1年を振り返る

情報交換会 など

17:00- オンライン懇親会

saveMLAK メソッド アクションカード作成 ワークショップを開催しました

2022年3月2日（水）、19時から21時の2時間、saveMLAK メソッドのアクションカード作成ワークショップをオンラインで開催しました。

saveMLAK メソッドとは、ロールプレイング方式の震災訓練プログラムで、減災ファシリテーターの鈴木光さんと saveMLAK 代表の岡本真が出会い、DIG (Disaster Imagination Game: 災害想像ゲーム)

の図書館版を作らないかと相談したのがきっかけで生まれました。

saveMLAK メソッドはこれまでリアルなワークショップで開催されてきましたが、2021年11月の図書館総合展イベントで、コロナ禍の中で、オンラインでどんなことができるか？という話題から、saveMLAK メソッドの中でキーになる「アクションカード」のバリエーションを考えるワークショップはオンラインでも可能なのではないか？という話になり、このアクションカード作成ワークショップを開催することになりました。

今回のワークショップでは実際に saveMLAK メソッドを行えなくても、アクションカードを見ながら考えることが重要です。地震が起きたとき、図書館ではどんなことが起こるのか、心構えができたり、注意点を洗い出すきっかけにしていきたいという意図もありました。

アクションカードを見ながら、どんなことが起こるか、どんなバリエーションが考えられるかなどを話し合いました。

話題となった事項をいくつか紹介します。

アクション(1) A1, B1 事務室に勤務していた館長が負傷しました。

館長は本部設置等の指示を出す立場なので、負傷度合いによっては混乱が生じるのではないかと。館長が行動不能なとき誰が指揮を取るか想定されているか。

アクション(1) 書架が倒壊、本が落ち通路がふさがっている

- ・本で人が死ぬ危険があるかどうか？
- ・関東 震度3 ぐらいでは本があまり落ちることはなかった
- ・関東 東日本大震災時は書庫の本が200冊ぐらいの山になった
- ・全員避難していたからよかったが下に人がいたら大変だった
- ・書架の付属品が落下してくる可能性も（照明など）



・小さい子どもは地震が起こると書架の間に埋もれてしまう危険がある←子どもは大人ときているはず

・とにかく安全な場所へ移動が最優先

アクション(2) 閉架書庫内で書架が将棋倒し

・集密かどうかで違う

・積層書架があるところは大変。火事が発生すると煙突効果が起きてしまう

・誰が書庫にいるか、把握できる体制が必要

・カードキーなので書庫に居る時、停電したらどうすれば？←手動の方法を要確認

・利用者目線だと、どこが出口なのかがわかりやすいように、サインなどを設置するのも対策の1つ

・閉架は近くにあればよいが遠い場所にあることもある。そこまで歩いていける状態にあるのかすぐにはわからないこともあり、非常時には複数人で行動が原則なので人手が割かれることを覚悟する必要があるそう。

【情報交換】図書館での避難経路に関わる防災訓練はどのようにされていますか？

・防災訓練は館内整理日に職員全員で行っている。火災・地震両方&利用者が居る時間帯を想定している(爆発物予告があった場合、なども想定している)

・大学全体で年に1回、防災訓練している。コロナで図上訓練に近くなり、かえって建物を想定した訓練に変わった。

・防災訓練を受けた人以外が即応しなければならなくなった場合のために、マニュアルが手に届くところに置かれていることも重要。

・地下駐車場は特殊な消化剤が散布される仕様になっており、手動の場合、どこを動かすか、訓練時に確認している。

・メール等での安否確認の訓練を実施している図書館等もある。いざという時に使える確認手段の確立が重要。

このような意見が出て、災害時にはいろいろなこと

が起こり、なんとかして対応していくには予め訓練し心構えをして、いざという時に備えて災害が大きくならないよう手を打っておく必要があると改めて感じました。

saveMLAK メソッドについてのご案内や、アクションカードを見たいという方は、下記のリンクをご参照ください。

【参考】

震災訓練プログラム saveMLAK メソッド

<https://savemlak.jp/wiki/%E9%9C%87%E7%81%BD%E8%A8%93%E7%B7%B4%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%A0saveMLAK%E3%83%A1%E3%82%BD%E3%83%83%E3%83%89>

震災訓練プログラム saveMLAK メソッド /20131127 (研修実施記録、資料にアクションカードあり)

<https://savemlak.jp/wiki/%E9%9C%87%E7%81%BD%E8%A8%93%E7%B7%B4%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%A0saveMLAK%E3%83%A1%E3%82%BD%E3%83%83%E3%83%89/20131127>

(記録作成：子安伸枝)

saveMLAK 会計報告

2022年1月-2022年3月

※12月度は変動なし

支出

| | | |
|------|---------|-------|
| 2/15 | ドメイン使用料 | 3982円 |
| 2/15 | 振込手数料 | 220円 |
| 3/11 | ドメイン使用料 | 3982円 |
| 3/11 | 振込手数料 | 220円 |
| 4/3 | 振込手数料 | 100円 |

収入

| | | |
|------|-------|-------|
| 1/29 | グッズ代金 | 2370円 |
| 2/1 | グッズ代金 | 2370円 |



4/1 利子 4円

4/3 寄付 1000円

残高

ゆうちょ振込専用: 61,740円

ゆうちょ総合: 938,408円

みずほ: 4,890円

残高合計: 1,005,038円

2022年2月～2022年5月の出来事と今後の予定

- 2022年2月14日(月) 第130回 Meetup を開催

<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/20220214>

- 2022年2月20日(日)に開催された図書館問題研究会 第48回研究集会 in ZOOM のライティングトークに covid-19 libdata チームのメンバー2名が登壇

<https://web.archive.org/web/20220309105943/https://tomonken.org/meeting/kenkyu/48kenkyu/>

- 2022年3月2日(水) saveMLAK メソッド アクションカード作成ワークショップ (オンライン試行版) 開催

<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/Workshop20220302>

- 2022年3月4日(金) -8日(火) 第27回 COVID-19の影響による図書館動向調査実施

<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9/20220308>

- 2022年3月17日(木) 第131回 Meetup を開催

<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/20220317>

★2022年3月福島県沖地震のページを作成。

- 2022年4月17日(月) 第132回 Meetup を開催

<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/20220417>

0418

- 2022年4月22日(金) -4月25日(月) 第28回 COVID-19の影響による図書館動向調査実施

- 2022年5月18日(水) 第133回 Meetup を開催

<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:Event/20220518>

- 2022年5月27日(金) -5月30日(月) 第29回 COVID-19の影響による図書館動向調査実施予定

- 2022年6月13日(月) 第134回 Meetup を開催予定

- 2022年7月2日(土) 年次報告会開催予定

編集後記

2022年3月16日(水)に宮城県と福島県で最大震度6強を観測する地震がありました。被災された地域のみなさまにお見舞い申し上げます。

翌日の Meetup で同地震についてまとめるページを saveMLAK のページ内に作成しました。残念ながら、地震等の災害は回避できませんが、災害による被害をできるだけ少なくし、また適切な支援のための情報がちゃんと必要なところに届くよう、saveMLAK の活動も充実させていきたいと思えます。

【子安伸枝：編集担当】

編集発行：saveMLAK プロジェクト
発行日：2022年5月26日(木) (第73号)
発行所：神奈川県横浜市中区相生町3-61 泰生ビル
さくら WORKS<関内>407
アカデミック・リソース・ガイド株式会社内
saveMLAK プロジェクト
E-mail：pr@savemlak.jp
URL：<https://savemlak.jp/>

